

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

## 事業名 **新**6次産業化スタートアップ事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 地産地消係 電話番号：058-272-1111 (内 2858)

E-mail: [c11444@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11444@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 4,000 千円 (前年度予算額：0千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	4,000	0	0	0	0	0	0	0	4,000
決定額	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けた農山村の所得向上や雇用確保、地域活力の向上を図るため、地域の農林水産物や資源を活用した6次産業化の取組を面的に拡大していくことが必要。
- ・現状の取組では、消費者の認知度が低い商品、計画どおりに売り上げが伸びていない商品もあり、消費者ニーズを的確に捉え、ターゲットを明確にした商品開発力、戦略的な販路の開拓力、プロモーションの不足等が課題となっている。
- ・6次産業化の推進が始まり10年経ったが、国では総合化事業計画認定事業者の経営が悪化している状況を課題とし、令和2年度から方針を転換。各都道府県に設置した6次産業化サポートセンターの支援対象者は、経営改善を目指す事業者として支援範囲が限定された。6次産業化の裾野を広げる取組みから急な方向転換が行われたため、国庫補助金を活用して現場のニーズに対応できない状況となってきた。
- ・岐阜県6次産業化サポートセンターにおいても、急な方針転換による支援対象から漏れてしまう農林漁業者からの問合せも多く、その事業者への十分な支援が行えないとして、柔軟な対応ができる事業の要望がある。

## (2) 事業内容

### ① 6次産業化チャレンジ研修の開催

6次産業化を実践する人材の掘り起し及び育成をするために、加工技術、経営、販路開拓研修等を10地域にて開催する。

### ② 6次産業化商品に係る費用助成

6次産業化を行う農業者等が加工に取り掛かる前の試作品の製作や、販売に必要な成分分析に係る費用を助成する。確実に産業として成り立つ商品を開発する観点から3回を限度として、試作品の改良や分析を行えることとする

## (3) 県負担・補助率の考え方

6次産業化の推進は県の重要施策であり、県負担は妥当。

## (4) 類似事業の有無

有り（6次産業化サポート体制整備事業、6次産業化推進事業費補助金）

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
委託料	4,000	専門家派遣、研修会開催、新商品開発費用助成業務等
合計	4,000	

### 決定額の考え方

所要額を精査し計上します。

財源については県有施設整備・新型コロナウイルス感染症対策基金を充当します。

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

#### ○岐阜県長期構想

##### I 新たな「成長・雇用戦略」の展開

未来につながる農業づくり

6次産業化の推進

#### ○ぎふ農業・農村基本計画

売れるブランドづくり

農業の6次産業化の取組拡大

### (2) 他県の状況

愛知県 三重県 富山県 なし

### (3) 後年度の財政負担

- ・本事業としては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金により単年度で実施。
- ・本年度の事業効果及び新型コロナの収束状況等を見極め、後年度の実施を検討する。

# 事業評価調査書

新規要求事業  
 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
    - ・ぎふ農業・農村基本計画
- 農産物の付加価値を高め、農業者の所得向上に繋げるため、農業者自らによる加工・販売や商工業者と連携した魅力ある商品開発など「農業の6次産業化」を一層進める。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>(前々年度末時点)</small>	目標	達成率
総合化事業計画の 認定件数（累計）	53件 (H25)	84件 (H29)	90件 (H30)	93件 (R1)	88件 (R3)	116% 基本計画

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

### (前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	農業経営においては依然として生産活動が主体で、市場ニーズへの対応が十分でないことから、所得確保のため農業者自らが加工・販売に取り組む6次産業化を進める必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価)	

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 6次産業化に取り組む農業者が抱える多種・多様な課題への対応が求められている。</li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 6次産業化の促進は国の成長戦略にも位置付けられており、本事業の継続が必要。今後の認定事業者を継続的に育成していくために、新規事業者の掘り起しや育成のため、国の事業の対象とならない範囲の支援を継続する。</li> </ul>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	